

平成 30 年度  
愛媛コミュニケーションブライダル専門学校  
学校関係者評価委員会 報告書

平成 30 年度  
愛媛コミュニケーションブライダル専門学校  
学校関係者評価委員会 議事録

I 日 時 : 令和元年 6 月 24 日 (月) 15:45~17:15

II 場 所 : 愛媛コミュニケーションブライダル専門学校 6 階サービス実習室

III 出席者 : 宮崎 光彦 委員 (道後温泉旅館協同組合 理事長)  
岡崎 城司 委員 (愛媛県調理師会 会長)  
伊與田恭之 委員 (有限会社イヨタ 代表取締役)  
荒木 誠 委員 (ANA クラウンプラザホテル松山 セールス支配人)  
葛山 啓介 委員 (唐人町二丁目東町内会 役員)  
(事務局)  
渡邊 雅子 (愛媛コミュニケーションブライダル専門学校校長)  
玉井 道雄 (愛媛コミュニケーションブライダル専門学校教頭)  
渡部 美貴 (学校法人愛媛学園事務局事務課長)

IV 議 事 : (1) 平成 30 年度自己評価結果について  
(2) 平成 30 年度自己評価に対する学校関係者評価について

上記 (2) における委員からの評価及び意見

1. 教育理念・目標について

評価項目	適切…4	ほぼ適切…3
	やや不適切…2	不適切…1
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4	
② 学校における職業教育の特色があるか	4	
③ 経済社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3	
④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3	
⑤ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	

○意見

- ・学校の理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されつつある。
- ・現場の楽しさ、仕事の素晴らしさを、もっと直接伝える工夫が必要だ。
- ・高邁な理想論だけではなく、実践的職業教育について、手と体で繰り返し学ぶことが重要だ。
- ・将来構想に関しては検討が足りていない。高校新卒のほか、社会人の学び直しや、留学生教育の役割も検討すべきだ。

2. 学校運営

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
④ 人事・給与に関する規定等は整備されているか	4
⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

○意見

- ・スクール運営や外部講座等の整理によって、専門学校運営の目的がより強調され、運営方針や事業計画が明確化してきた。
- ・教職員個々人の能力や裁量に負う部分が大きく、組織として機能を高める努力が必要だ。
- ・コンプライアンスを徹底させるための仕組みとして、学園理事会や評議員会等があり、また、職員会議もその役割を担う体制だと考えられる。教職員個々人が、コンプライアンスについてどう取り組むことができるのかを考える機会が必要だ。

3. 教育活動

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修	4

業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
⑤ 関連分野の企業・関連施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学接続によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか	3
⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	3
⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	2

○意見

- ・教員の能力開発のための研修については、もっと取り組む余地がある。
- ・実習、特にチームや組織で取り組む授業において、コミュニケーション力を評価する基準が明確だとは言い難い。
- ・シラバスの整備は進んだと思う。科目と科目の補完的關係や相乗効果のある關係については、教員それぞれが自律的に教育プログラムの改善とシラバスの見直しを行い、教育技術の向上を図れるようになることが望まれる。

4. 学修成果

評価項目	適切…4    ほぼ適切…3 やや不適切…2    不適切…1
① 就職率の向上が図られているか	3
② 資格取得率の向上が図られているか	3

③ 退学率の低減が図られているか	3
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

○意見

- ・世代的傾向かもしれないが、卒業後のキャリア形成と学校の教育活動との間にギャップが大きくなっていないか？
- ・卒業生に対する情報収集は、学修成果を評価するために必要。
- ・インターンシップ、アルバイト、就職先として企業と付き合いのみでなく、共に業界の人材を育成するパートナーとしての関係づくりが望まれる。

5. 学生支援

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
② 学生相談に関する体制は整備されているか	4
③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2
④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	2
⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか	2
⑦ 保護者と適切に連携しているか	3
⑧ 卒業生への支援体制はあるか	2
⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア・職業教育の取組が行われているか	3

○意見

- ・課外活動に対する支援をもっと行った方がよい。
- ・卒業生とギブ&テイクの関係づくりに力を入れた方がよい。
- ・生活面での支援ニーズが高まっている。特に経済的な支援体制については、学校独自のものがなく、検討すべき。
- ・日常的な学生支援(補習、アルバイトの紹介、就職相談、悩みの相談)等については、担任制を廃して教職員全員で対応してきたが、体制と効果が定着してきた。

## 6. 教育環境

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4
② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
③ 防災に対する体制は整備されているか	4

### ○意見

- ・施設・設備の整備及び防災体制は整っている。
- ・防災に関しては、施設規模が小さいと言うものの、備蓄品の確保やAEDの設置等については、早急に検討すべきだ。
- ・インターンシップや研修等については、もとお県外や国外も検討できないか。

## 7. 学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
① 学生募集活動は、適正に行われているか	3
② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
③ 学納金は妥当なものとなっているか	4

### ○意見

- ・生徒募集活動は適正に行われている。
- ・業界の厳しさと魅力の両面(特に厳しさ)が十分に伝わっているとは言えない。
- ・厳しさの向こう側に楽しさ、充足感、達成感があることを伝えるべきでだ。
- ・業界の魅力を偏らず完全に伝えてもたいたい。

## 8. 財務

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
③ 財務について会計監査が適正に行われているか	4
④ 財務情報公開の体制整備はできているか	4

○意見

- ・財務内容は適正である。
- ・財務に関する監査や公開は、適正に行われている。
- ・財務基盤を強化する必要がある。

9. 法令等の遵守

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
④ 自己評価結果を公開しているか	4

○意見

- ・個人情報の保護については、その具体的な方法を徹底する必要がある。
- ・自己評価とその公開は適正に行われている。

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
③ 地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	2

○意見

- ・企業・団体に対しては、学校の教育資源を活用して社会貢献・地域貢献によく取り組んでいる。
- ・不特定の個人に対する公開講座や教育訓練等は、ヒューマンアカデミーのフランチャイズ経営の契約終了にあたってが少なくなるのは残念だ。新たな取り組みを検討してはどうか。

## 11. 国際交流

評価項目	適切…4	ほぼ適切…3
	やや不適切…2	不適切…1
① 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っているか		2
② 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理などにおいて適切な手続き等がとられているか		1
③ 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか		1
④ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか		2

### ○意見

- ・過去、国際的な交流プログラムは、北京電影学院等を相手に行ってきた。しかし、現在は留学生の受け入れや国際交流は行っていない。今後、留学生を受け入れるのか受け入れないのか、戦略的に考える必要がある。
- ・留学生受け入れとは関係なく、学習成果を国内外で評価される取組を行うことは、重要だ。現在行っている交流事業の継承と留学生受け入れ体制の整備とを戦略的にリンクさせられないかを検討する。それに沿って具体的な推進方策を立てなければならない。